

【参 考 资 料】

1. 用語集

横須賀港港湾環境計画を策定するに当たり、計画の中で使用されている用語の定義を整理した。

○アクセスディンギー

アクセスディンギーは、一般の人はもちろん、高齢者や子供、そして障害を持つ人でも1人もしくは2人で安全に操縦できるように設計された小型ヨットである。特別な訓練や練習を必要とせず、簡単な説明で、すぐに操縦することができ、一般のヨットと同様のセーリングを十分に楽しめる。子供や高齢者、そして障害者などが無理なく、風をとらえて小型ヨットを体験することが可能である。操縦は、『ジョイスティック』と呼ばれる操縦桿で進行方向を操り、メインシート・ロープでセール（帆）を操る。腕の力が弱い人や腕に障害を持つ人には、電動モーターを使い小さなスティック1本で進行方向やセールを操る装置も取り付けることが可能である。

○アダプトシステム（アダプトプログラム）

アダプト（ADOPT）とは英語で「〇〇を養子にする」という意味である。一定区画の公共の場所（駅前、繁華街、一般道路、公園、河川、海浜など）を養子にみたと、市民が里親となって養子の美化（清掃）を行い、行政がこれを支援する。市民と行政が役割分担を定め、両者のパートナーシップ（協働）のもとで美化を進める。

○沿岸域

この用語が初めて公の文書で用いられたのは、1977年に国が作成した第三次全国総合開発計画の中であり、この中では「沿岸陸域と沿岸海域を一体的とした沿岸陸海域」と定義されている。沿岸域の定量的な範囲については常に議論されているが、地域毎の個性を考えると、地域毎の決断と主体性が尊重される必要があり、地域により異なるのが自然とする考え方がある。

○海岸防護

海岸防護とは、高潮や侵食などの自然災害から海岸を守ることであり、そのための対策として、離岸堤、潜堤、消波ブロックなどの設置や、防波堤、護岸などの整備が行われている。1956年（昭和31年）に制定された海岸法においては、自然災害から海岸を防護することを目的として海岸整備が行われてきたが、その後、海岸に対する意識の向上や、多様な海岸利用の要請に対応するため、1999年（平成11年）に一部改正された海岸法では、従来の海岸の防護に加え、自然環境や利用に配慮し、調和のとれた海岸整備を進めていくこととなった。

○環境学習

自然科学や地域社会に関する環境について学ぶこと。自然科学に関する環境学習では、近年は実際に干潟や河川、岩礁域などの海岸を体験し、環境問題に関する学習を行う体験型の環境学習が盛んに行われている。自然環境を学ぶ方法として最適であるといわれており、自然体験、調査活動、自然保護活動、美化活動等が挙げられる。また、地域社会に関する環境学習では、

地元にある港湾などの歴史や成り立ちなどを、小中学校の総合学習の一環として行っている地域もある。

○環境と共生する港湾（エコポート）

近年の地球環境問題から、港湾においても積極的な環境創造が求められており、来世代への豊かな港湾環境の継承することを目指し、「自然環境との共生」、「快適な港湾環境の創出」することを基本理念として提言された。この目標像として、「自然にとけ込み、生物にやさしい港」、「積極的に良好な自然環境を創造する港」、「アメニティが高く、人々に潤いと安らぎを与える港」、「環境に与える負荷が少なく、環境管理のゆきとどいた港」などを掲げている。

○共生

生物学的には、同種あるいは異種の生物が互いに利益になるよう行動的あるいは生理的に密接な関係を定常的に保って生活している現象をいい、片方だけが利益を得ている場合を片利共生、片方が害を受けている場合は寄生という。

なお、人と自然との「共生」とは、

自然が人間にとって必要不可欠な存在であるとの認識のもと、その役割を認め、自然環境を守りつつ共に生きていくことを意味する。

○サイン計画

公共のサイン計画とは、多様な人々にわかりやすい情報を伝えることを目的とした情報提供装置を体系的に設置することを言い、快適な環境づくりには欠かせないものである。情報提供の方法については、様々な立場の利用者がいるため、同じ内容でも必ず複数の伝達手段を利用することが求められる。例えば、文字とピクトグラム、日本語と英語などの併用により理解を促したり、文字と音声、文字と触知など「五感からのアプローチ」が必要になる。

○サンゴ（造礁性とソフトコーラル）

サンゴは刺胞動物に分類され、このサンゴ群集がサンゴ礁の形成に大きな役割を果たしている。造礁性とは、炭酸カルシウムの骨格を生産しサンゴを形成する性質のことであり、サンゴ礁を形成するサンゴ類の多くは褐虫藻と共生している。またソフトコーラルとは、石灰質の微小な骨片を体中に充満させているものである。横須賀市沿岸には、トゲトサカやウミトサカ等が見られる。

○COD

化学的酸素要求量のこと。水質の汚れ具合を示す指標の一つで水中の有機物を酸化剤で化学的に分解した時に消費される酸素量のこと、数値が高いほど汚濁が進んでいることを示し、

海域の水質汚濁指標として用いられている。

○自浄作用

水域に流入した汚濁物が自然の浄化作用によって濃度がしだいに減少していくことを浄化作用といい、物理的作用、化学的作用、生物的作用の3つからなる。このうち、物理的作用とは、水による希釈・拡散や沈殿などによって見かけ上の水中の汚濁物質濃度が減少する。化学的作用とは、酸化、還元、凝集、吸着などの作用によって汚濁物質が無害なものに変化したり、水中に溶解しにくくなること。また、生物的作用とは、汚濁物質が生物によって吸収・分解を受けることである。

○修復

損害を受け、制限されている生態系の機能を人手により回復すること。近年、修復により自然環境を取り戻す方法の研究や技術開発が盛んに行われている。

○親水（親水性）

「親水」を狭義に解釈すると、水遊び、魚釣りなどのレクリエーション機能を意味するものとして捉えられるが、広義には、生態系の保全、景観を通しての心理的・情緒的満足などの概念をも包括する、「環境形成機能」を象徴する用語として用いられている。「親水」という造語が使われるようになったのは、昭和40年代後半に入ってからである。「親水」は河川に対するそれまでの主要な社会的要請であった「治水」、「利水」という2つの機能に付加すべき機能として注目を集めるようになった。

○水域類型

環境基本法に基づく水質汚濁に係る環境基準は、水質保全行政の目標として公共用水域の水質等について達成し、維持することが望ましい基準を定めたものであり、人の健康の保護に関する環境基準（以下「健康項目」という。）と生活環境の保全に関する環境基準（以下「生活環境項目」という。）の二つがある。

前者の健康項目については公共用水域及び地下水に各々一律に定められているが、後者の生活環境項目については、河川、湖沼、海域ごとに利用目的に応じた水域類型を設けてそれぞれ基準値を定め、各公共用水域について水域類型の指定を行うことにより水域の環境基準が具体的に示されることになっている。

○トラスト活動（ナショナル・トラスト運動）

各地の市民が募金などにより土地を買い取り、または自治体に買い取りを求めて、あるいは土地の所有者からの遺贈・寄贈を受ける、契約を結ぶことにより、その土地を保全、管理、再

生、公開し、あるべき姿を後世に残そうとする活動である。この活動は自然環境と一体をなした一定の土地にこだわって、市民自らが土地の所有者になることや、契約者として半永久的に責任をもっていく活動である。また、所有や契約ができない場合であっても、河川、海岸、島、湿地などの特定の国公有地における自然保護活動もその範囲に含める。

○パブリックアクセス

人々が海辺にたどりつくための道路等の手段と、たどりついてからそこで憩い、遊ぶことができるような海辺環境を包括した概念。具体的には、水辺へのアクセス、水際線に沿ったアクセス、景観（視覚）上のアクセスを包括するものである。パブリックアクセスを実現する構成要素として、次の5点をあげることができる。

- ①魅力ある水辺空間
- ②水際線にそったアクセス（親水性）
- ③水際線へのアクセス（接近性）
- ④景観（視覚）上のアクセス
- ⑤水辺空間と交通拠点とのネットワーク

○生物多様性

場の違いにより生息する生物の違いを質的、量的な観点から総合的に評価したもの。多様性が高いほどその環境は複雑であることを示すことから、環境を検討する方法として用いられている。また「生物の多様性」とは、すべての生物（陸上生態系、海洋その他の水界生態系、これらが複合した生態系、その他生息又は生育の場の如何を問わない。）の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む。

○都市温熱環境の緩和

都市の中心部と郊外と比較して常に気温が高いということは、以前から報告されている。この都市部の気温が周辺部より高くなる現象は「ヒートアイランド現象」と呼ばれている。その主な原因として、

- ①アスファルトの道路は昼間の太陽の熱射で深層まで高温となり、夜間に蓄積された熱が放出される。
 - ②樹木は大量の水を空気中に吐き出しています。緑地面積が小さくなると植物や地表からの水分の蒸発量が減少し、蒸発潜熱が減少する。
 - ③都市への人口の集中により各種のエネルギーの使用量が増え、排熱量が増加する。
 - ④高層建物などの壁面で多重反射するため、都市の構造物が加熱され易くなる。
- などがあげられる。これらの要因を誘発する環境のことを「都市温熱環境」という。

○復元

一度失われた自然を以前の状態に近づけること。

○平和教育

平和教育には、「平和についての教育」と「平和のための教育」がある。前者の「平和についての教育」は、平和と戦争の問題を直接的に教材として取り扱うので、直接的平和教育と呼ばれる。後者の「平和のための教育」は、平和な社会の形成者を育てるために行う幅広い教育活動を示し、平和・戦争問題とは間接的に関わるという意味で間接的平和教育と呼ばれている。また、広義の平和教育と呼ばれるときもある。さらに、教育方法も平和的であるべきという観点からは、平和の中での教育という概念もある。

○放置艇（不法係留艇）

港湾、漁港、河川等の公共用水域において継続的に係留等されている船舶のうち、水域管理者の認めた区域又は施設以外の区域又は施設等にあり、かつ、法律、条例等で定めた手続きを経ていないもの。近年、港湾等の公共用水域に放置されているプレジャーボート等が、公共用水域の適正利用、災害・安全対策など港湾等の管理上の問題にとどまらず、地域の環境を守る上で深刻な問題となっている。

○保全

自然、資源、環境などを良い状態に保つこと。自然・資源を合理的かつ上手に利用することという定義もある。

○保存

自然の成り行きに任せ、人的な管理を一切行わない方法のこと。

○藻場・干潟

藻場とは、沿岸海域において大型の海藻類や海草の群落から形成され、それ自身貴重な海洋資源となる他に、魚介類の産卵、生息の場所としての役割を果たし、「海のゆりかご」として重要な場である。また、干潟は、潮の干満により干出と冠水を繰り返す砂泥質の平坦な場所である。この干潟には、ゴカイ類をはじめ多くの生物が生息しており、浄化機能の優れた場所でもある。また、野鳥の餌場や、潮干狩りなどレクリエーションの場としても重要であるなど、多様な役割を果たしている。

○ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインの提唱者はノースカロライナ州立大学のロナルド・メイスであり、そ

これまでのバリアフリーの概念に代わって、「できるだけ多くの人が利用可能であるように製品、建物、空間をデザインすること」をユニバーサルデザインと定義した。ユニバーサルデザインは、“すべての人が人生のある時点で何らかの障害をもつ”ということ、発想の起点としている点で、これまでのバリアフリーデザインとは大きく異なる。そこには、かわいそうな人のために何かしてあげようという慈善ではない。

障害の部位や程度によりもたらされるバリア（障壁）に対処するのがバリアフリーデザインであるのに対し、ユニバーサルデザインは障害の有無、年齢、性別、国籍、人種等にかかわらず多様な人々が気持ちよく使えるようにあらかじめ都市や生活環境を計画する考え方である。

ユニバーサルデザインによって、バリアフリーデザインがなくなるかといえば、そうではない。たとえば、まちでよく見かける黄色の点字ブロックは、バリアフリーデザインの代表例だが、ユニバーサルデザインのまちづくりという全体的なデザインのなかでは、ユニバーサルデザインの一部となる。

ADA（障害をもつアメリカ人法）によるとユニバーサルデザインは次の7原則で構成される。

- ①誰にでも公平に利用できる（公平性）
- ②使う上で柔軟性に富む（自由度）
- ③簡単で直感的に利用できる（単純性）
- ④必要な情報が簡単に理解できる（わかりやすさ）
- ⑤単純なミスが危険につながらない（安全性）
- ⑥身体的な負担が少ない（省体力）
- ⑦接近して使える寸法や空間になっている（スペースの確保）

○横須賀港の長期構想

横須賀市では、現在、およそ向こう10余年間の港湾整備、運営の方向づけを行う「港湾計画」の改訂作業を進めている。港湾の役割は、物流や産業の振興はもとより、沿岸環境の保全、海洋性レクリエーションの振興、親水性やアメニティ空間の創出などがあり、これらのあるべき姿を定める港湾計画は、臨海部のまちづくりに関わる重要なものと言える。港湾計画に基づく施設の整備は、長い期間を要するものであり、かつ長期間にわたって地域の経済や産業等に影響を持つものであり、長期的な視点に立った計画の策定が求められている。このため、策定作業の第一段階として、港湾計画の前提となるより長期的な「横須賀港の長期構想」をとりまとめる必要がある。

○ビーチコーミング

コーミングとは髪の毛をとかすのに使う「コーム」が語源。浜辺を手のくしでときながら、自分の感性の赴くままに拾い集めて楽しむということを総称して「ビーチコーミング」と言う。

誰でも簡単にできる遊びであることから、近年全国で広く行われている。

○エコミュージアム

エコミュージアムとは、エコロジーとミュージアムの合成語。地域のある一定の領域（生活圏などの地域の広がり）において、そこに点在する有形無形の文化財や史跡、自然環境、産業遺産など、地域のさまざまな資源をあるがままに、あるいはより良い状態に保全し、住民自ら調査研究し、保存しかつ学習していく活動のことで、フランスで1960年代後半に誕生した概念。

○インタープリター

観光地の魅力をより深く実感することができるよう、風景を見物するだけでなく、体験する観光プログラムが全国で行われ始めている。この体験観光プログラムの中で、自然や歴史などに対する語り部としてツアーガイドが存在する。これらの総称をインタープリターと呼ぶ。

○サンドアート

砂を活用した造形物。画板に多彩な色を付けた砂を貼付して絵画を描くなども行われているが、海岸などで砂浜の砂をつかった像をつくったり、砂浜を画板にして絵を描く等についても全国のイベントとして行われるようになって来ている。

○ワークショップ

あるテーマについて、様々な人々が技術や知恵を出し合い、グループ作業によりデザインの提案等を行う方法で、大勢の人が参加し、共同作業によりデザインする方法である。住民参加型の有効な手法として期待されている。

○ゲレンデ

カヌーやシーカヤック、アクセスディンギーなどを行うために確保された海域のことである。特に初心者や初級者がこれらの活動を行う場合には、海域における静穏性が確保されていたり、他の船舶の航行がないなど、安全な利用ができるよう十分に配慮する必要がある。

2. データ集 (最新環境情報)

横須賀港は、東京湾では数少ない自然海岸が現存するなど、多様な環境が残されている港湾である。

そのような横須賀港の港湾環境を考えるに当たり、最新の環境情報を十分に把握する必要がある。

本データ集では、最も新しい環境情報として、港湾計画の策定時に調査された現況データを整理した。

【港湾計画調査】

○調査実施場所

横須賀港港湾区域内（調査測点図 参照）

○調査実施期間

春季：平成15年5月27日～平成15年5月30日

夏季：平成15年8月22日～平成15年8月24日

秋季：平成15年11月26日～平成15年11月28日

冬季：平成16年2月2日～平成16年2月5日

○調査実施内容

調査内容

項目	調査内容
水質調査	水質
底質調査	底質
生態系調査	藻場

横須賀港 港湾環境アセスメント調査 測点別調査項目

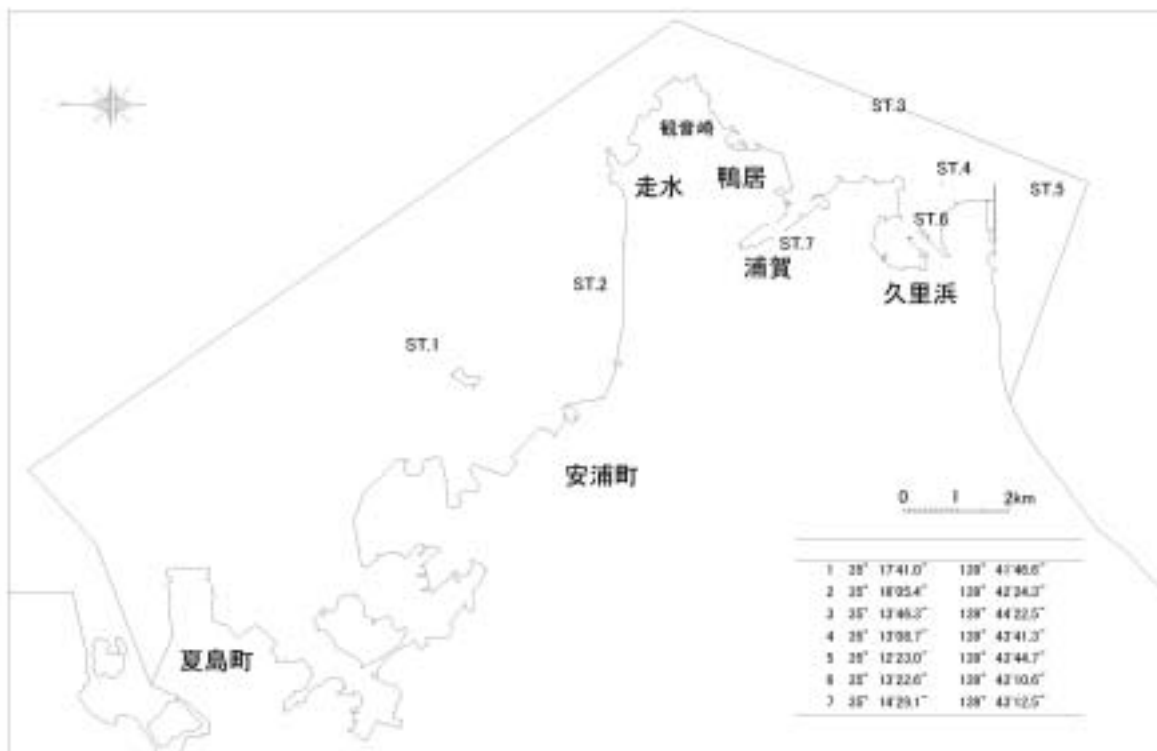
調査地点	St.1	St.2	St.3	St.4	St.5	St.6	St.7
水質	一般項目	年4回	年4回	年4回	年4回	年4回	—
	健康項目	—	夏冬	—	夏冬	—	—
底質	一般項目	夏冬	夏冬	夏冬	夏冬	夏冬	—
	有害物質	—	夏	—	夏	—	夏

注) 水質一般項目：生活環境を保全するうえで維持することが望ましい基準として設定された項目

【pH、D0(溶存酸素量)、COD(化学的酸素要求量)、n-ヘキシル抽出物質(油分)、大腸菌群数】

水質健康項目：公共用水域の水質保全行政の目標として達成し維持されることが望ましい基準として設定された項目

【カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、ヒ素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、1, 1-ジクロロエチレン、シス-1, 2-ジクロロエチレン、1, 1, 1-トリクロロエタン、1, 1, 2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1, 3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素】



調査測点図

水質調査結果 春季（5月）

水質（一般・生活項目）分析

測点番号	1		2		3		4		5	
地点名	猿島沖		馬堀地先		灯明堂沖		久里浜港口		東電沖	
月日	H15.5.29		H15.5.27		H15.5.28		H15.5.28		H15.5.28	
時刻	9:05		10:30		8:45		9:35		9:10	
水深	14.0		12.0		15.0		11.0		13.5	
透明度	2.0		3.0		8.0		6.0		7.5	
	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水素イオン濃度(pH) (0.1)	8.4	8.3	7.8	8.2	8.2	8.1	8.2	8.2	8.2	8.2
溶存酸素量(DO) mg/L (0.5)	14.0	9.8	4.8	7.0	6.7	6.6	7.8	6.6	7.0	6.7
%	184.6	128.3	61.9	91.5	89.3	87.5	102.8	87.5	92.1	88.4
化学的酸素要求量(COD _m) mg/L (0.5)	5.2	2.8	5.3	1.4	2.6	2.1	3.5	2.2	2.8	2.1
ノルマルヘキサン抽出物質 mg/L (0.5)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
大腸菌群数 MPN/100mL (2.0)	<1.0	<1.0	5.0	5.0	49.0	<1.0	270.0	13.0	8.0	13.0
浮遊物質 mg/L (1.0)	6.0	6.0	5.0	5.0	2.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0
全窒素(T-N) mg/L (0.01)	0.67	0.52	3.10	0.59	0.56	0.35	0.67	0.61	0.67	0.50
全リン(T-P) mg/L (0.005)	0.038	0.032	0.251	0.044	0.037	0.023	0.038	0.035	0.036	0.027

()内は定量下限

水質（一般・生活項目）分析

水質調査結果 夏季（8月）

測点番号	1		2		3		4		5	
地点名	猿島沖		馬堀地先		灯明堂沖		久里浜港口		東電沖	
月日	H15.8.24		H15.8.22		H15.8.23		H15.8.23		H15.8.23	
時刻	12:30		10:45		16:30		9:15		14:30	
水深	17.0		15.0		13.0		13.5		16.5	
透明度	2.0		3.0		2.5		3.0		2.5	
	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水素イオン濃度(pH) (0.1)	8.5	8.1	8.4	8.2	8.4	8.2	8.3	8.1	8.6	8.2
溶存酸素量(DO) mg/L (0.5)	15.2	6.7	15.9	6.4	10.4	8.2	10.9	7.9	14.8	7.2
%	215.4	93.2	218.5	87.4	148.4	114.7	153.7	110.1	210.6	101.6
化学的酸素要求量(COD _m) mg/L (0.5)	5.3	1.5	4.3	1.0	3.1	1.8	3.2	1.1	5.4	1.2
ノルマルヘキサン抽出物質 mg/L (0.5)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
大腸菌群数 MPN/100mL (2.0)	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0
浮遊物質 mg/L (1.0)	6.0	2.0	4.0	3.0	7.0	3.0	4.0	1.0	28.0	4.0
全窒素(T-N) mg/L (0.01)	0.66	0.56	1.25	0.42	0.62	0.43	0.66	0.36	0.71	0.35
全リン(T-P) mg/L (0.005)	0.050	0.052	0.070	0.036	0.040	0.034	0.048	0.031	0.056	0.031

()内は定量下限

水質調査結果 夏季（8月）

水質(健康項目)分析

測点番号		1	2	3	4	5
地点名		猿島沖	馬堀地先	灯明堂沖	久里浜港口	東電沖
カドミウム(Cd)	mg/L (0.001)		<0.001		<0.001	
全シアン(CN)	mg/L (0.05)		<0.05		<0.05	
鉛(Pb)	mg/L (0.005)		<0.005		<0.005	
六価クロム(Cr6+)	mg/L (0.04)		<0.02		<0.02	
砒素(As)	mg/L (0.005)		<0.005		<0.005	
総水銀(T-Hg)	mg/L (0.0005)		<0.0005		<0.0005	
アルキル水銀(R-Hg)	mg/L (0.0005)		<0.0005		<0.0005	
PCB	mg/L (0.0005)		<0.0005		<0.0005	
トリクロロエチレン	mg/L (0.002)		<0.002		<0.002	
テトラクロロエチレン	mg/L (0.0005)		<0.0005		<0.0005	
ジクロロメタン	mg/L (0.002)		<0.002		<0.002	
四塩化炭素	mg/L (0.0005)		<0.0005		<0.0005	
1,2-ジクロロエタン	mg/L (0.0004)		<0.0004		<0.0004	
1,1-ジクロロエチレン	mg/L (0.002)		<0.002		<0.002	
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L (0.004)		<0.004		<0.004	
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L (0.001)		<0.001		<0.001	
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L (0.0006)		<0.0006		<0.0006	
1,3-ジクロロプロペン	mg/L (0.0002)		<0.0002		<0.0002	
チウラム	mg/L (0.0006)		<0.0006		<0.0006	
シマジン	mg/L (0.0003)		<0.0003		<0.0003	
チオベンカルブ	mg/L (0.002)		<0.002		<0.002	
ベンゼン	mg/L (0.001)		<0.001		<0.001	
セレン	mg/L (0.001)		<0.001		<0.001	
亜硝酸性窒素	mg/L (0.01)		0.04		0.02	
硝酸性窒素	mg/L (0.01)		0.56		0.11	

()内は定量下限

水質調査結果 秋季（11月）

水質（一般・生活項目）分析

測点番号	1		2		3		4		5	
地点名	猿島沖		馬堀地先		灯明堂沖		久里浜港口		東電沖	
月日	H15.11.28		H15.11.28		H15.11.27		H15.11.27		H15.11.27	
時刻	9:20		11:05		9:10		10:05		10:40	
水深	14.5		7.0		16.2		13.0		13.0	
透明度	6.0		6.0		7.0		7.0		8.0	
	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水素イオン濃度(pH) (0.1)	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1
溶存酸素量(DO) mg/L (0.5)	7.4	7.6	7.7	7.2	7.1	7.4	7.0	7.2	7.2	7.2
%	90.7	93.2	94.6	88.4	90.0	94.0	89.1	91.1	92.2	92.2
化学的酸素要求量(COD _{mn}) mg/L (0.5)	1.9	1.7	1.5	1.2	1.5	1.4	1.5	1.2	1.2	1.1
ノルマルヘキサン抽出物質 mg/L (0.5)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
大腸菌群数 MPN/100mL (2.0)	5.0	5.0	22.0	5.0	<2.0	<2.0	220.0	<2.0	13.0	220.0
浮遊物質 mg/L (1.0)	2.0	1.0	3.0	2.0	4.0	<1.0	3.0	4.0	3.0	5.0
全窒素(T-N) mg/L (0.01)	0.74	0.80	0.79	0.77	0.49	0.46	0.49	0.44	0.41	0.45
全リン(T-P) mg/L (0.005)	0.062	0.068	0.076	0.065	0.041	0.039	0.044	0.043	0.041	0.041

()内は定量下限

水質調査結果 冬季（2月）

水質（一般・生活項目）分析

測点番号	1		2		3		4		5	
地点名	猿島沖		馬堀地先		灯明堂沖		久里浜港口		東電沖	
月日	H16.2.5		H16.2.2		H16.2.4		H16.2.4		H16.2.3	
時刻	11:15		11:55		9:30		12:50		10:05	
水深	10.0		13.4		13.5		14.0		15.0	
透明度	4.5		4.0		7.0		6.5		5.5	
	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水素イオン濃度(pH) (0.1)	8.2	8.2	8.1	8.2	8.1	8.1	8.0	7.5	8.1	8.1
溶存酸素量(DO) mg/L (0.5)	11.0	11.0	12.0	10.0	11.0	10.0	11.0	9.8	10.0	10.0
%	119.4	120.1	129.3	108.8	124.5	113.8	123.4	111.1	112.3	112.4
化学的酸素要求量(COD _{mn}) mg/L (0.5)	3.1	3.4	3.7	2.2	1.6	1.1	1.7	1.2	1.9	1.5
ノルマルヘキサン抽出物質 mg/L (0.5)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
大腸菌群数 MPN/100mL (2.0)	<2.0	<2.0	<2.0	<2.0	<2.0	<2.0	<2.0	<2.0	<2.0	5.0
浮遊物質 mg/L (1.0)	3.0	26.0	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
全窒素(T-N) mg/L (0.01)	0.77	0.97	1.01	0.83	0.54	0.52	0.53	0.53	0.59	0.57
全リン(T-P) mg/L (0.005)	0.033	0.068	0.040	0.033	0.025	0.026	0.023	0.026	0.025	0.026

()内は定量下限

水質調査結果 冬季（2月）

水質（健康項目）分析

測点番号		1	2	3	4	5
地点名		猿島沖	馬堀地先	灯明堂沖	久里浜港口	東電沖
カドミウム(Cd)	mg/L (0.001)		<0.001		<0.001	
全シアン(CN)	mg/L (0.05)		<0.05		<0.05	
鉛(Pb)	mg/L (0.005)		<0.005		<0.005	
六価クロム(Cr6+)	mg/L (0.04)		<0.04		<0.04	
砒素(As)	mg/L (0.005)		<0.005		<0.005	
総水銀(T-Hg)	mg/L (0.0005)		<0.0005		<0.0005	
アルキル水銀(R-Hg)	mg/L (0.0005)		<0.0005		<0.0005	
PCB	mg/L (0.0005)		<0.0005		<0.0005	
トリクロロエチレン	mg/L (0.002)		<0.002		<0.002	
テトラクロロエチレン	mg/L (0.0005)		0.0008		<0.0005	
ジクロロメタン	mg/L (0.002)		<0.002		<0.002	
四塩化炭素	mg/L (0.0005)		<0.0005		<0.0005	
1,2-ジクロロエタン	mg/L (0.0004)		<0.0004		<0.0004	
1,1-ジクロロエチレン	mg/L (0.002)		<0.002		<0.002	
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L (0.004)		<0.004		<0.004	
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L (0.001)		<0.001		<0.001	
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L (0.0006)		<0.0006		<0.0006	
1,3-ジクロロプロペン	mg/L (0.0002)		<0.0002		<0.0002	
チウラム	mg/L (0.0006)		<0.0006		<0.0006	
シマジン	mg/L (0.0003)		<0.0003		<0.0003	
チオベンカルブ	mg/L (0.002)		<0.002		<0.002	
ベンゼン	mg/L (0.001)		<0.001		<0.001	
セレン	mg/L (0.001)		<0.001		<0.001	
亜硝酸性窒素	mg/L (0.01)		0.38		0.29	
硝酸性窒素	mg/L (0.01)		0.03		0.02	

()内は定量下限

底質調査結果 夏季（8月）

底質（一般項目）分析

測点番号		1	2	3	4	5	6	7
地点名		猿島沖	馬堀地先	灯明堂沖	久里浜港口	東電沖	久里浜港内	浦賀港内
月日		H15.8.24	H15.8.22	H15.8.23	H15.8.23	H15.8.23	H15.8.23	H15.8.23
時刻		12:30	10:45	16:30	9:15	14:30	12:30	17:40
水深		17.0	15.0	13.0	13.5	16.5	9.0	11.0
外観		砂泥	砂泥	砂泥	砂泥	礫交じり砂	砂泥	ヘドロ
臭気		なし	なし	なし	なし	なし	なし	硫化物臭
泥温		21.0	20.5	21.5	21.0	21.5	21.5	21.0
色相		黒	黒	黒	黒～茶		黒	黒
混入物		なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
含水率	%	25.8	33.9	28.5	29.3	32.7	27.3	
強熱減量	%	3.2	4.2	2.5	5.0	3.6	3.3	
COD	mg/g (0.1)	2.3	6.3	2.2	4.7	2.6	3.6	
硫化物	mg/g (0.01)	<0.01	0.27	0.10	0.05	0.05	0.05	
全窒素	mg/kg (10.0)	730.0	720.0	470.0	500.0	390.0	330.0	
全リン	mg/kg (10.0)	210.0	430.0	430.0	380.0	400.0	350.0	
比重	g/cm3 (0.1)	2.85	2.73	2.84	2.75	2.77	2.83	

()内は定量下限

底質（有害物質）分析

含有

測点番号		1	2	3	4	5	6	7
地点名		猿島沖	馬堀地先	灯明堂沖	久里浜港口	東電沖	久里浜港内	浦賀港内
PCB	mg/kg (0.01)		<0.01		<0.01		<0.01	0.03
有機塩素化合物	mg/kg		<2		<2		<2	<2
総水銀(T-Hg)	mg/kg		0.08		0.06		0.03	2.4

底質（有害物質）分析

溶出

測点番号		1	2	3	4	5	6	7
カドミウム又はその化合物(Cd)	mg/L (0.001)		<0.001		<0.001		<0.001	<0.001
シアン化合物(CN)	mg/L (0.1)		<0.1		<0.1		<0.1	<0.1
有機リン化合物(O-P)	mg/L (0.1)		<0.1		<0.1		<0.1	<0.1
鉛又はその化合物(Pb)	mg/L (0.005)		<0.005		<0.005		<0.005	<0.005
六価クロム化合物(Cr6+)	mg/L (0.04)		<0.04		<0.04		<0.04	<0.04
砒素又はその化合物(As)	mg/L (0.005)		<0.005		<0.005		<0.005	<0.005
水銀又はその化合物(T-Hg)	mg/L (0.0005)		<0.0005		<0.0005		<0.0005	<0.0005
アルキル水銀化合物(R-Hg)	mg/L (0.0005)		<0.0005		<0.0005		<0.0005	<0.0005
ポリ塩化ビフェニル(PCB)	mg/L (0.0005)		<0.0005		<0.0005		<0.0005	<0.0005
銅又はその化合物(Cu)	mg/L (0.05)		<0.05		<0.05		<0.05	<0.05
亜鉛又はその化合物(Zn)	mg/L (0.01)		<0.01		<0.01		<0.01	<0.01
弗素化合物(F)	mg/L		0.3		0.2		0.1	0.4
トリクロロエチレン	mg/L (0.002)		<0.002		<0.002		<0.002	<0.002
テトラクロロエチレン	mg/L (0.0005)		<0.0005		<0.0005		<0.0005	<0.0005
ベリリウム又はその化合物(Be)	mg/L (0.01)		<0.01		<0.01		<0.01	<0.01
ニッケル又はその化合物(Ni)	mg/L (0.01)		<0.01		<0.01		<0.01	<0.01
クロム又はその化合物(Cr)	mg/L (0.03)		<0.03		<0.03		<0.03	<0.03
バナジウム又はその化合物(V)	mg/L		0.06		0.04		0.04	0.4
ジクロロメタン	mg/L (0.002)		<0.002		<0.002		<0.002	<0.002
四塩化炭素	mg/L (0.0005)		<0.0005		<0.0005		<0.0005	<0.0005
1,2-ジクロロエタン	mg/L (0.0004)		<0.0004		<0.0004		<0.0004	<0.0004
1,1-ジクロロエチレン	mg/L (0.002)		<0.002		<0.002		<0.002	<0.002
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L (0.004)		<0.004		<0.004		<0.004	<0.004
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L (0.001)		<0.001		<0.001		<0.001	<0.001
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L (0.0006)		<0.0006		<0.0006		<0.0006	<0.0006
1,3-ジクロロプロペン	mg/L (0.0002)		<0.0002		<0.0002		<0.0002	<0.0002
チウラム	mg/L (0.0006)		<0.0006		<0.0006		<0.0006	<0.0006
シマジン	mg/L (0.0003)		<0.0003		<0.0003		<0.0003	<0.0003
チオベンカルブ	mg/L (0.002)		<0.002		<0.002		<0.002	<0.002
ベンゼン	mg/L (0.001)		<0.001		<0.001		<0.001	<0.001
セレン又はその化合物	mg/L (0.001)		<0.001		<0.001		<0.001	<0.001

()内は定量下限

底質調査結果 夏季（8月）

底質 粒度分析

測点番号	1	2	3	4	5	6
地点名	猿島沖	馬堀地先	灯明堂沖	久里浜港口	東電沖	久里浜港内
月日	H15.8.24	H15.8.22	H15.8.23	H15.8.23	H15.8.23	H15.8.23
時刻	12:30	10:45	16:30	9:15	14:30	12:30
水深	17.0	15.0	13.0	13.5	16.5	9.0
石分(75mm以上)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
礫分(2～75mm)	33.9	0.0	3.3	0.0	19.0	0.0
砂分(0.075～2mm)	61.5	78.9	93.3	69.3	69.8	78.1
シルト分(0.005～0.075mm)	2.8	14.0	2.0	25.9	8.9	18.4
粘土分(0.005mm未満)	1.8	7.1	1.4	4.8	2.3	3.5
最大粒径	9.50	2.00	9.50	2.00	19.00	2.00

底質調査結果 冬季（2月）

底質（一般項目）分析

測点番号	1	2	3	4	5	6
地点名	猿島沖	馬堀地先	灯明堂沖	久里浜港口	東電沖	久里浜港内
月日	H16.2.5	H16.2.2	H16.2.4	H16.2.4	H16.2.3	H16.2.3
時刻	11:15	11:55	9:30	12:50	10:05	12:45
水深	10.0	13.4	13.5	14.0	15.0	10.0
外観	砂泥	砂泥	砂泥	砂泥	礫交じり砂	砂泥
臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし
泥温						
色相	黒	黒	黒	黒～茶		黒
混入物	なし	なし	なし	なし	なし	なし
含水率 %	28.1	34.1	39.0	23.3	29.3	31.6
強熱減量 %	6.6	3.0	5.7	1.9	2.2	3.3
COD mg/g (0.1)	6.1	11.9	14.2	1.9	2.6	12.8
硫化物 mg/g (0.01)	0.0	0.34	0.24	<0.01	<0.01	0.23
全窒素 mg/kg (10.0)	2700.0	4200.0	1200.0	210.0	500.0	750.0
全リン mg/kg (10.0)	550.0	240.0	290.0	320.0	380.0	390.0
比重 g/cm ³ (0.1)	2.77	2.69	2.71	2.77	2.76	2.77

()内は定量下限

表-20 底質調査結果 冬季（2月）

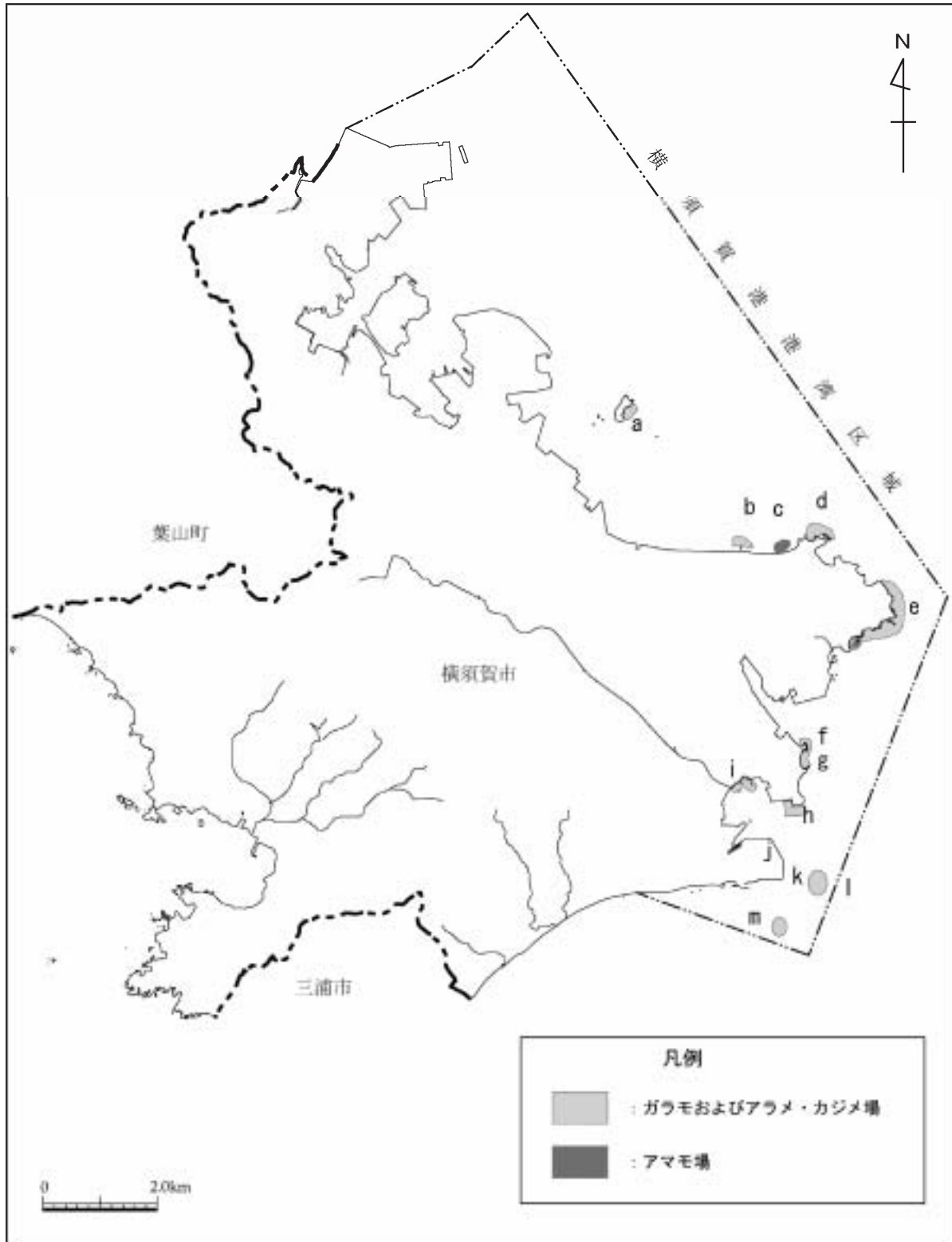
底質 粒度分析

測点番号	1	2	3	4	5	6
地点名	猿島沖	馬堀地先	灯明堂沖	久里浜港口	東電沖	久里浜港内
月日	H16.2.5	H16.2.2	H16.2.4	H16.2.4	H16.2.3	H16.2.3
時刻	11:15	11:55	9:30	12:50	10:05	12:45
水深	10.0	13.4	13.5	14.0	15.0	10.0
石分(75mm以上)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
礫分(2～75mm)	31.7	1.8	0.0	0.0	25.6	0.0
砂分(0.075～2mm)	50.9	72.1	51.9	91.6	70.2	54.5
シルト分(0.005～0.075mm)	8.8	15.7	35.1	5.4	2.7	31.2
粘土分(0.005mm未満)	8.6	10.4	13.0	3.0	1.5	14.3
最大粒径	9.50	4.75	2.00	2.00	19.00	2.00

藻場調査結果（平成15年5月）

側線 番号	場所	概要	底質	主要海草藻類（最大被度）
a	猿島	猿島南東側に岸から設定	転石 （人頭大）	アナアオサ(10%) アラメ(10%) アカモク(<5%)
b	走水海岸	海岸西寄り	岩盤（覆砂）	マクサ(20%) アナアオサ(15%) アラメ(10%)
c	同上	海岸東寄り	砂泥	アマモ(40%) コアマモ(30%) アナアオサ(10%)
d	同上	小学校下（漁協裏）に岸から設定	岩礁	アナアオサ(30%) アオノリ属(10%) アラメ(10%)
e	タタラ浜	博物館下に岸から設定	岩礁（覆砂）	アマモ(30%) タチアマモ(15%) オオバモク(10%)
f	灯明堂	灯明堂下北寄りに岸から設定	岩礁	アラメ(50%) アカモク(50%) イソモク(30%)
g	同上	灯明堂下南寄りに岸から設定	岩礁～砂泥	アナアオサ(50%) アマモ(30%) アラメ(20%)
h	研究所下	防衛庁第5研究所下	転石 （人頭大）	カジメ(80%) アカモク(50%) マクサ(40%)
i	港研横	港研横に岸から設定	転石 （人頭大）	アラメ(80%) マクサ(50%) アオサ属(30%)
j	発電所	発電所下	砂泥	無節サンゴモ(20%) マクサ(<5%) アラメ(<5%) ハイミル(<5%)
k	アシカ島	北西側に設定	岩礁	カジメ(40%) アラメ(30%) ハイミル(10%)
l	同上	東側に設定	岩礁	ハイミル(<5%) カジメ(<5%) 無節サンゴモ(<5%)
m	カンダイ根	発電所南側の根	岩礁	無節サンゴモ(5%) ハイミル(<5%)

資料：横須賀港港湾計画環境アセスメント調査業務委託報告書 平成16年3月



資料：横須賀港港湾計画環境アセスメント調査業務委託報告書 平成16年3月

藻場分布概略図

3. 横須賀の海の生き物たち

横須賀港は、東京湾口部と内湾の境にあり、自然の砂浜や磯場などが点在する、多様な環境条件を有する港湾である。そのような港湾前面の海中では、様々な生物が生息している。

ここでは、横須賀市環境部の「海辺生物環境調査」で確認された、普段では見ることの出来ない横須賀港前面の海の中の生物を紹介する。

出典：「海辺生物環境調査」（1999. 3. 横須賀市環境部）



01_ゴズイ玉



02_マナマコ



03_カサゴ



04_アメフラシ



05_ウミエラの仲間



06_スズメダイ



07. タツノオトシゴ



08. ヨウジウオの仲間



09. ケヤリ(ゴカイ)の仲間



10. ニジギンボ



11. アマモ



12. アラメ